

人口と世帯数

52年12月末日現在

総人口 13,921人

男 6,892人

女 7,029人

世帯数 3,126戸

広報



たまつくり

第210号

昭和53年1月5日

(毎月1回発行)



あけまして

おめでとうございます

今年は午年

皆さまが天馬のように
飛躍の年でありますように

'78/1月号

現実を直視して	2
玉造ロータリークラブ仮発足	3
モチツキで楽しい一日	4
イチゴ交流会行わる	5
P T A 指導者研修会開かる	6
手賀婦人会と献血者五名に感謝状が	7
施設紹介(学習センター・農民研修センター)	8・9
おしらせ(国民年金だより)	10・11
くらしの豆知識・出産・死亡	12

主な内容

現実を直視して

玉造町長 坂本常蔵



明けましておめでとうござります。
新らしい年を迎えるにあた
り、みなさまのご健康を心から
お祝い申し上げますとともに、
平素からの町政に対する
ご理解とご支援に対し、深く
感謝申しあげます。
さて、昨五二年は、前年か
ら引き続いた景気の沈滞ムード
からぬけきれず、経済的に

苦しい年であつたと同時に、社会的にみても、ハイジャックなどの事件が相つぎ、暗い印象の年でありました。当町にとりましても、必ずしも躍進の年とはなりませんでした。が、幸いにして、みんなさまのご協力により予定されただ事業は順調に進めることができました。

新しい民生委員決まる

総務に笠目吉男氏

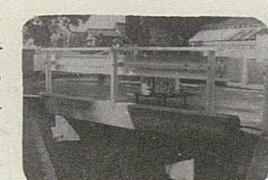
民生委員（児童委員も兼ねる）の任期満了にともない、新しい二十五名の民生委員が決まり、十二月一日付で厚生大臣より委嘱されました。また総務に笛目吉男氏、副総務に大和田甲氏が選ばれました。今度はじめて民生委員に委嘱されたのは、藤井地区担当に田山治夫（藤井）さん、西蓮寺地区担当に根崎清（西蓮寺）さん、舟津・竹の塙第三地区担当に磯山哲夫（舟津）さん、捻木・若海地区担当に

根崎幸雄（若海）さんの四名の方々です。

なお、退職された鈴木篤然（西蓮寺）さん、磯山善吉（舟津）さん、田山ミツ（藤井）さん、藤崎昇（捻木）さんは、長年にわたり地域の福祉行政のためにお骨折りいたしました。なかでも前総務の鈴木篤然さんは、三十七年間の長きにわたり民生委員として福祉活動にご尽力されました。ご苦労様でした。

分的には補修をかさねてきましたが、老朽化と打ち寄せる交通量の波には勝てず、このたび重量通行にも耐えうる近代的な橋に衣がえされました。昨年十月九日に着工し、総工費三百万円は玉造町と麻生町とが折半し、十二月十五日に完成をむかえたもので、十九日の開通式には玉造町長と麻生町長のテープカットにより、当町からは栗原新右衛門さんご夫婦がわたりぞめをしました。

（ミ二橋）わたりぞめ
一 天王橋が開通一



- 2 -

奉仕と友愛に燃えて

王造
クラブカ侃發足
認証伝達式は三月

証言式は二月に

昨年十月二十七日に「玉造ロータリークラブ」が仮発足し、その創立総会が玉造商工会館で行われました。ロータリーとは地域社会への友愛と奉仕をかげる社会奉仕団体で、会員は実業家や専門職業人などから構成されています。
なお、認証伝達式は三月二十六日に盛大に挙行される予定で、そこではじめて国際ロータリー本部に正式に登録されます。

創立総会は、点鐘の後、国歌及びロータリーソングが斉唱され、このたび仮発足となつた経過が報告されました。

で、会長に宮本伝重郎氏、副
会長に小沼忠雄氏、幹事に田
中長広氏が選ばれ、事務局を
常陽銀行玉造支店内に置き、
毎週土曜日の午後に「例会」

ロータリークラブが最初にできたのは、今から七三年前の一九〇五年。アメリカの青年弁護士P・ハリスが奉仕の

ける人間の幸わせ、人情をとりもどそと広く人々に呼びかけて第一回の会合を開いたのが、ロータリークラブの誕

「」は現在会員数が三十五名
明けましておめでとうござ
います。昨年中は交通事故防
止について、御町内の皆さん
方にたいへん御世話様になり
心から厚く御礼申し上げます

が開かれ、会員はこれに出席

精神によって、社会生活における人と人との災害であるからお互いに譲り合えば事故はなくなるはずです。

互いに我良かれと進まずに、
“お先にどうぞ”と譲り合つて
事故防止に御協力をお願ひい
たします。

とも安全運転
交通安全協会
玉造支部長

野原芳一

に会わないよう 常は安全運転と安全な歩行に御協力を御願いいたします。

何を置いても守らなければなりません。

則を常に実行すること。

A stylized illustration of Mount Fuji, depicted as a dark mountain peak with a white snow-capped top. A crescent moon is positioned to the left of the peak, and a white crane is perched on the right side of the mountain's slope.

表紙の写真は茨城県青年
『あいの船』に町から
参加した成島真理子さん
ら五名より町に贈られた
木彫りの置物です。

社会奉仕の理想に燃え、町や村の地域からその輪を世界のすべての人々と手を取り合つて親善と平和の為に役立てようと発展し、国際ロータリーとなりました。

モチツキで楽しい一日

町青年団（堀田和男団長）と玉造地区婦人会（中島澄子会長）とが中心となって、さる十二月十八日（日）に慰問をかねた。モチツキが、茨城町の養護施設石崎学園（珠渕啓二園長）で行われました。

この行事は十一年前から毎年暮に実施されているもので、当日は、モチツキの他にこどもたちと一緒に野球や縄跳びなどをして楽しい一日を過ごしました。

恒例 石崎学園の慰問

こどもたちに明るいお正月を迎えていた

ただこうと、さる十二月十六日に石崎学園で、モチツキが行われました。これは町の青年団、青年団OB、一〇会、役場青年部及び玉造地区婦人会とが一体となり、毎年実施されています。当日は、約六〇名もの慰問団がマイクロバスと自家用車に分乗し、午前八時に中央公民館を出発しました。九時頃石崎学園に到着し、衣類等の慰問品と募金をお届けしました。

最初は「一に



ぎり運動”から

この“モチツキ”がはじまつたのは今から一年前のことです。青年団の若い人たちの間から、「施設でモチツキをしよう！」という声がで、玉造町から距離的に近いということで石崎学園が選ばれました。

最初は“一に”いうことで、みんなで一にぎりの米をもちより、青年団員だけのモチツキが行われました。これが学園の子どもたちに喜ばれ、その輪が次第に大きくなり、一昨年からは婦人会のお母さんたちからの自主的な申し出もあって、参加者も年々増えてきました。

モチツキは十時から始まりました。婦人会のお母さんたちはかっぽう着に、青年団のお姉さんはエプロンに身をつみ、キネやウスそしてこの日の材料等を自分たちでもちより、用意万端すつかりととつと押よせてきた。どの子も顔はいきいきしている。いつしかあちこちで、モチツキをする前に、交歓がはじまつた。何かをうつたえようと体にしがみついていくつしょうけんめい手ぶりをする子、口が不自由なのだ。「僕五段はしごができるよ！」と自慢気にはじめのうちはつくタイミングが合わずウスのふちにキネも目つきだけは真剣そのもの。

モチツキのうちに、生徒たちはもうなずいていた。イチゴ栽培組合とあすなろ家政専修学校は、今後もこの交流会を続けることにしていましたが、父兄側も熱心で、ある母親は、「よい人がみつかれば」と、目をかがやかせていました。なお、会の最後には生徒から後継者に作品がプレゼントされました。

モチツキは十時から始まりました。婦人会のお母さんたちはかっぽう着に、青年団のお姉さんはエプロンに身をつみ、キネやウスそしてこの日の材料等を自分たちでもちより、用意万端すつかりととつと押よせてきた。どの子も顔はいきいきしている。いつしかあちこちで、モチツキをする前に、交歓がはじまつた。何かをうつたえようと体にしがみついていくつしょうけんめい手ぶりをする子、口が不自由なのだ。「僕五段はしごができるよ！」と自慢気にはじめのうちはつくタイミングが合わずウスのふちにキネも目つきだけは真剣そのもの。

モチツキだけは真剣そのもの。娘さん（母親？）ぶりを發揮し、背中におぶったり、ブランコを押している女子青年団の姿が印象的でした。ボランティア活動とは“ここところ”のふれあいにあると感じられた一回でした。子どもたちの番。うれしい息もピッタリと合い、「ペ

おもちおいしいネ！

ターンペッタン”とつくりズミカルな音に、まわりの青年団員の間からざかんな拍手がおこる。

こころがふれ合う

昼食は、子どもたちと一緒に“お雑煮”と“おしるこ”を食べ、午後は野球や縄跳び、おにごっこにと楽しいひとときでした。子どもたちは底ぬけに明るく、また一緒になつて遊ぶ青年団員の方たちも、この日ばかりは童心にかえり、夢中になつて子どもたちの相手をしていました。

—4—



イチゴ交流会行わる

—あすなろ服装生徒と後継者—

この交流会には、後継者と服装生徒のほかに、それぞれ地元の農業委員四名も出席し、つてている嫁不足解消に役立てばと、農業問題や農家の生活などについてアドバイスしました。

交流会が最初に行われたのは昨年の二月にさかのぼります。“イチゴ栽培の様子を知つてもらおう”と、後継者たちが自分たちの栽培しているイチゴハウスに生徒たちを招き、イチゴ狩りを実施したのがきっかけです。それが生徒たちに好評をはくし、お礼として二回目の交流会がもたらされたわけです。

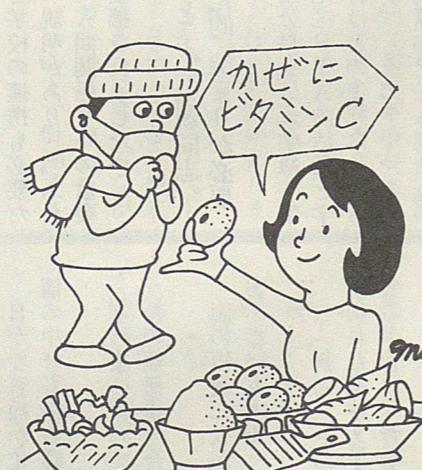
会は、後継者の青年たちが、イチゴ栽培の実状を説明し、生徒たちが聞き役にまわり質問するなかで進められました。

「農業と言つてもイチゴ栽培の場合、田畠と仕事の量は変わらないが、作業は楽だ」という後継者の説明に、生徒たちもうなずいていた。

イチゴ栽培組合とあすなろ家政専修学校は、今後もこの交流会を続けることにしていましたが、父兄側も熱心で、ある母親は、「よい人がみつかれば」と、目をかがやかせていました。なお、会の最後には生徒から後継者に作品がプレゼントされました。

気象ひとくちメモ

冬に咲く氷の花



風邪をひかないための食事

“霧氷”は氷のなかでも、特にめずらしく氷の花を見るよくな美しさを秘めています。

空中で〇度以下に冷えているのに氷になれないなかった水のつぶ（雲つぶ）が、木や岩についてこおつたものが霧氷です。

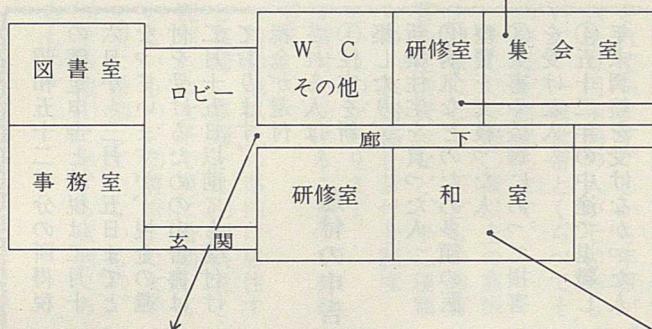
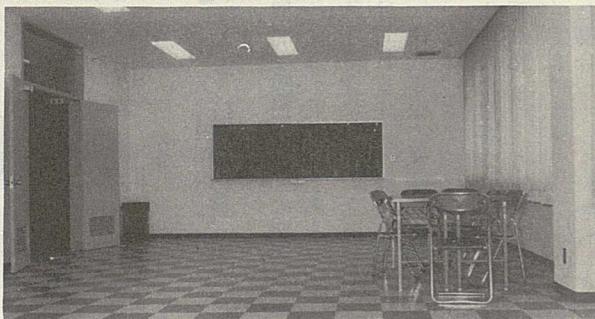
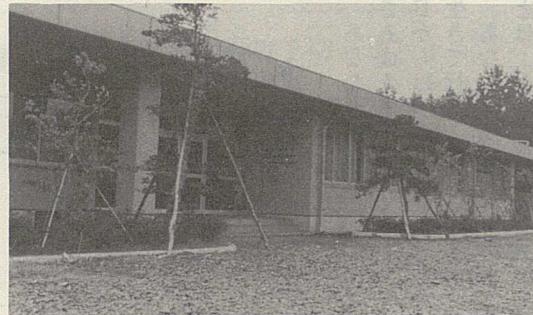
この雲つぶが強い風で立ち木にふきつけられると、風上の方に向かって“霧氷”が成長し、立木全體が氷につつまれて“樹氷”になるわけです。

ほかにも、霧氷の形がくすぐつかけです。それが生徒たちと一緒に野球や縄跳びなどをして楽しい一日を過ごしました。

この交流会には、後継者と服装生徒のほかに、それぞれ地元の農業委員四名も出席し、つてている嫁不足解消に役立てばと、農業問題や農家の生活などについてアドバイスしました。

交流会が最初に行われたのは昨年の二月にさかのぼります。“イチゴ栽培の様子を知つてもらおう”と、後継者たちが自分たちの栽培しているイチゴハウスに生徒たちを招き、イチゴ狩りを実施したのがきっかけです。それが生徒たちに好評をはくし、お礼として二回目の交流会がもたらされたわけです。

会は、後継者の青年たちが、イチゴ栽培の実状を説明し、生徒たちが聞き役にまわり質問するなかで進められました。



農民研修センター

▼ 概 要

『榎本地区農民研修センター』は、農家の自立経営所得の向上等を目的とした研修の場として中山部落の榎本に建てられました。現在の総合農政や複雑多岐にわたら流通機構に対応出来る農民の教育研修の場をつくることによって、経済的な安定と精神修養とに寄与するため、昭和四十九年十月十五日

日に工事に入り、翌年三月二十日に完成しました。総事業費四一九五万円をかけた『研修センター』は、研修室が二、図書室、集会室、和室等からなる立派な建物です。

▼ 概 要

『榎本地区農民研修センター』は、防衛庁の補助事業として一般住民の学習、保育、休養及び集会等利用のための施設として、まず捻木部落に『現原地区学習等供用施設』が建設されました。

総事業費五一二六万円をかけて、昭和四十九年二月二十日に第一次工事が始まり、同年十二月二十日に完成したので、防音装置、冷暖房つきの『学習室』へ集会室へ保育室』等からなっています。この施設は社会教育の場として、地域の人々の仲間づくり、人づくりに活用され、いままでの地区公民館にかわる新しい成人教育の館となっています。

昭和五十二年三月十七日からは『学習等供用施設』の名で、昭和五十一年三月十七日に着工、同年七月三十一日に完成。現在は一時的措置として幼稚園にも利用されています。また来年度には『手賀地区』の建設が予定されています。

施設紹介

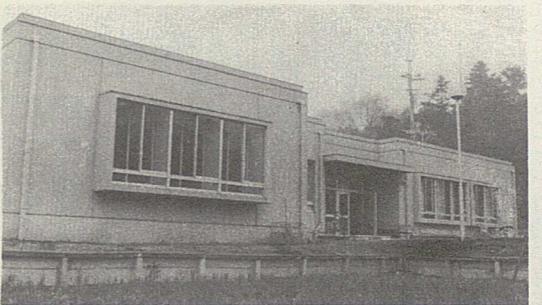
学習センター
農民研修センター

▼ 概 要

生涯教育という言葉が使われていますが、学習の場は学校に入っている一時期だけに限らず、社会に出てからも必要とされます。そうしたことから、『学習センター』は一般住民の社会教育等の場として、又『農民研修センター』は、総合農政のなかにおける農民の研修の場として、どちらも地域生活に密着した研修施設としてつくられました。

現在、『学習センター』は捻木、羽生、浜の三ヶ所に、『農民研修センター』は中山地区だけにあります。

学習センター



▶ 羽生地区学習センター



▲ 玄関前

▼ 施設規模

施設名	現原地区	羽生地区	玉造西地区
学習室	48.3m ²	63.0m ²	56.7m ²
休養室	34.9m ²	70.0m ²	
集会室	95.3m ²	63.0m ²	28.4m ²
保育室	34.9m ²	14.5m ²	
事務室	13.2m ²	15.0m ²	0m ²
その他の	146.4m ²	111.5m ²	68.8m ²
計	373.0m ²	337.0m ²	153.9m ²



久留米豆知識

若さを保つ生活心得

動脈硬化をはばす

動脈硬化は、老化の一つの
あらわれです。動脈硬化の速
度をおくらせたり、進行を阻
むためには、栄養、運動、休
養の調和をとつて若さを保つ
生活を心がけましょう。



させることはよく知られています。コレステロールのほとんどは体内で作られます。食品に含まれて体内に入る分も少なくありません。

また、肉、卵、チーズなどに含まれる動物性脂肪は、体内でコレステロールをふや

よいでしょう。このほか、いか、たこ、えびなども含有量が多く、また、卵を多用するカステラなどのケーキ類も盲点です。食べすぎないよう

作用をします。

コレステロールは動物の肝臓、肉、内臓、肉に多く

を消防署へ」で内宿は構
町の、11頁「自衛官募集」
で昭和五十一年三月まで
は昭和五十三年三月まで
のそれぞれ誤りでした。
おわびいたします。

山平山高清
氏
崎間崎須水
千名
儀道新と
三郎雄之助く里

おぐやみを
申し上げます

宿 中八宿 沖上荒 緑若里 竹捻上浜 上浜荒 と
木 ケの山 茂山宿丘海 壇木山 山宿 ころ
山蒔 洲山宿
林 郡遠林森風谷高樽閔北藤小小宇羽鈴 保
司藤 戸間田木見口沢崎沼田木成木
純 健平清大忠和展 敬正正 正正喜 護
一 二俊一司男男始章和三和巳勇元美治
者

七四 六九 八四 六二 年令

和政健容^{タケル}悟 慎良喜琢祐豊 明德賢赤
洋誠 忍
江樹樹子^{エイ}江司 弥二宏磨一和 美郎司

誕生おめでとうございます

出產

八月

編集後記

○あけましておめでとうございます。一九七八年の新しい年をむかえ、家々には門松が並び、何かしら心のひきしまるものを感じます。

ことしはウマ年。ギャロップのごとくまい進し、明るい年にしたいものだと思います。

○“モチつき”(P4)に参加し感じたことは、“子どもはどの子も皆底ぬけに明るくて無邪気で、かわいい……”ということ。帰りのバスのなかでひさしぶりに心よい疲れがでました。

